

○ “ふれあいの森”（青森県生活協同組合連合会）植樹活動

6月10日（日）、十和田市大字奥瀬字谷地国有林119林班内において、青森県生活協同組合連合会による、ふれあいの森植樹活動が行われました。

当日は雨模様の天候でしたが、青森市や弘前市などから集まった会員とその家族の方々80名が参加し、ブナの苗木200本を植樹しました。

同連合会のふれあいの森は、牛乳パックの回収による収益金を“植林を中心とした森林を守る活動”に役立てることを目的に始まり、今年度で協定締結から7年目、通算で12回目となります。

植樹開始前のセレモニーでは、主催者代表の筒井会長から「ここ数日、天候が続いていたが、本日は恵みの雨の中での植樹となり、植樹したブナは必ず根づきます。

ブナの木が大木になるには、何十年もかかり、自分の植えた木が大木になる姿は見られないが、子供、孫、その次の世代のために大切に植樹して下さい。」との挨拶があり、続いて村上業務第一課長の挨拶の後、植樹会場に移動し、奥瀬森林官の模範演技を受け参加者全員で植樹を開始しました。

今年も子供と一緒に参加された家族連れや大学生が多く見られ、慣れないながらも、楽しそうに一生懸命植樹をしていました。

植樹終了後には、十和田乗馬倶楽部駐車場に移動し焼き肉やおにぎりなどを食べ、日程を終了しました。



筒井会長の挨拶



開会式の様子



植樹の様子（その1）



植樹の様子（その2）